

〔カルタップ粒剤〕

農林水産省登録 第 11188号

性 状：類白色細粒

毒 性：劇 物

危 険 物：—

有効年限：4 年

包 装：3kg×8

パダン® 粒 剤 4

有効成分：カルタップ塩酸塩 ……………4.0%

殺虫剤分類 14



「住友化学農業ガイド」の見方：i-農力サイトの「製品情報」、「農業ガイドを見る」から、「農業ガイドの見方」をご覧ください。
本剤の最新情報：こちらのQRコードを読み取るとi-農力サイトに掲載されている本剤の最新情報がご覧になれます。

〔適用と使用方法〕

作物名	適用害虫名	10アール当り 使用量	使用時期*	総使用回数*	使用方法
稲	ニカメイチュウ イネツトムシ コブノメイガ アザミウマ類 フタオビコヤガ	3～4kg	30日前	本 剤：6回 カルタップ：6回 (#1)	散布
	サンカメイチュウ (第3世代) スクミリンゴガイ (食害防止)	4kg			
稲 (箱育苗)	イネミズゾウムシ スクミリンゴガイ (食害防止)	育苗箱*1箱当り 60～100g	は種前 又は移植当日	本 剤：1回 カルタップ：6回 (#3)	は種前に育苗箱床土に均一に混和するか、又は移植当日に育苗箱中の苗の上から均一に散粒する
	ニカメイチュウ イネゾウムシ幼虫	育苗箱*1箱当り 80～100g			
	イネドロオイムシ イネハモグリバエ ツマグロヨコバイ コブノメイガ	育苗箱*1箱当り 50～100g			
ひ え	アワノメイガ	4kg	21日前	2回	散布
ふ き	フキノズイバエ	6kg	7日前		
ふ き (ふきのとう)			21日前	本 剤：2回 カルタップ：4回 (#2)	
ほうれんそう	ミナミキイロアザミウマ	6kg	は種時 及び発芽揃時	2回	土壌表面散布 及び茎葉散布
とうもろこし	アワノメイガ		7日前		株の上から 均一に散粒する
はとむぎ	アワノメイガ イネヨトウ	4kg	14日前	3回	散布
だいこん	キスジノミハムシ		は種時		覆土後土壌 表面散布
			生育期 但し、 7日前		株元散布
まこもたけ	ニカメイチュウ		75日前		散布

#1：浸種前は1回、浸種後から直播での
は種時又は移植時までの処理は1回

#2：水溶剤の処理は2回、粒剤の処理は2回

#3：浸種前は1回、浸種後から移植時までの処理は1回

★：30×60×3cm、使用土壌約5ℓ



効果・薬害等の注意

- 本剤を使用した場合には、チオシクロム又はベンスルタップを含む剤は使用しない。
- 使用量に合わせて秤量し、使いきる。
- 本剤は田水中で粒形が崩壊しなくても成分は速やかに溶出するので薬効に影響はない。
- 本剤を本田に使用する場合、3 cm前後の湛水とし、田面に均一に散布し散布後4～5日間は湛水状態を保ち、散布後7日間は落水やかけ流しはしない。
- 漏水のはげしい水田では使用しない。
- 本剤をとうもろこしのアワノメイガに使用する場合、アワノメイガのふ化盛期に雄穂及び雌穂にもかかるよう株の上から均一に散布する。
- スクミリンゴガイに対しては、食害防止効果を目的として使用する。本剤には殺貝効果がないので、水田以外の生息地には決して使用しない。
- 薬剤が育苗箱からこぼれ落ちないように処理する。また、土壌全面に不透水性無孔シートを敷くなど、薬剤処理後の灌水による土壌への浸透をさける。
- 本剤を箱育苗に使用する場合は次の注意を守る。
 - 使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し所定の範囲内のなるべく低薬量で使用する。特に初めて使用する場合は病害虫防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。

[移植当日に使用する場合]

- 育苗箱中の苗の上から所定量を均一に散粒する。なお、葉に付着した本剤は軽く払い落とし、そのまま田植機にかけて移植する。
- 施用は必ず移植当日に行う。薬剤施用から移植までの時間が長いと薬害を生じ易くなるので、なるべく移植直前(2～3時間以内)に施用する。
- 苗葉がぬれていると薬害を生じ易いので、散布直前の灌水はしない。
- 軟弱徒長苗では薬害のおそれがあるので、健苗に使用する。

[床土に混和する場合]

- 床土に人工培土を使用する場合には予め薬害に対して安全性の確認されている培土を使用する。
- 播種前に育苗用床土に所定量の薬剤を均一に混和する。覆土への混和は行わない。
- 土壌の種類によっては育苗期間中に葉先枯れなどの薬害を生じることがあるので床土が下記のような土壌の場合には使用をさける。
 - ・火山灰性の畑土、山土(りん酸吸収係数2000以上のもの)
 - ・砂土など有機物の含量の少ない土壌。尚、火山灰土、砂土など薬害を生じやすい土壌の場合でもモンモリロナイト(粘土の一種)に富む育苗資材を床土に5%程度混和することにより薬害を軽減することができる。
- 軟弱徒長苗では薬害のおそれがあるので、健苗の育成に努める。
- 育苗箱に本剤を使用した苗の移植をする場合は次の注意を守る。
 - 本田の整地が不均整な場合は薬害を生じ易いので代かきは丁寧に行い、移植後田面が露出したりすることのないように注意する。移植後は直ちに入水し、水深2～3 cm程度を保ち浅水はさける。
 - 深植の場合には薬害を生じ易いので注意する。
 - 本田が砂質土壌の場合や、漏水田、未熟堆肥多用田の場合は使用をさける。
 - 移植後極端な低温や高温(30℃以上)が続くと予測される場合、あるいは冷水がかりなど低温障害が起こりやすい場所では使用をさける。
 - ニカメイチュウに対しては早期栽培など、特に薬剤施用時期が早い場合や、ニカメイチュウ第一世代の発生が遅れた場合には十分な効果が期待できない。
 - イネゾウムシに対しては主として本田でのふ化幼虫の密度を下げ次世代の成虫の加害を

低下させることを目的として使用するものであり、越冬成虫に対する効果は期待できない。

- スクミリンゴガイに対しては本剤の育苗箱処理は効果の持続が十分でないことがあるので、本剤に有効な本田処理剤や耕種の防除法との組み合わせで使用する。
- 本剤はつまみ菜、間引き菜に使用しない。



安全使用上の注意



- 蚕に対して長期間毒性があるので、散布された薬剤が飛散し、桑に付着するおそれのある場所では使用をさける。
- 医薬用外劇物。取扱いには十分注意する。
誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせる。
本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受ける。
- 本剤による中毒に対しては動物実験でL-システイン製剤の投与が有効であると報告されている。
- 本剤は眼に対して刺激性があるので眼に入った場合には直ちに水洗し、眼科医の手当を受ける。
- 本剤は皮膚に対して弱い刺激性があるので皮膚に付着しないよう注意する。
付着した場合には直ちに石けんでよく洗い落とす。
- 散布の際は農業用マスク、手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用する。
作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをする。
- 水産動植物（魚類）に影響を及ぼすので、養魚田では使用しない。また、本剤を使用した苗は養魚田に移植しない。
- 水産動植物（ドジョウ）に影響を及ぼすので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用する。養殖池等周辺での使用は避ける。
- 散布後または移植後は、水管理に注意する。
- 直射日光をさけ、鍵のかかるなるべく低温で乾燥した場所に密封して保管する。

「[農薬ガイドの見方](https://www.i-nouryoku.com/prod/search/) (<https://www.i-nouryoku.com/prod/search/> 農薬ガイドの見方.pdf)」の「3. 注意事項：(1)、(2)、(3)、(4) - A」も合わせてお読み下さい。

〔品目特性〕

(水面施用剤として)

- 散布適期の幅が広い：コブノメイガやイネツトムシなど食害性害虫に対して散布適期の幅が広く、安定した高い防除効果を示します。
- 天敵に影響が少ない：クモや寄生蜂に影響の少ない薬剤です。

(育苗箱施用剤として)

- イネミズゾウムシの幼虫防除にすぐれた効果：イネミズゾウムシに対して、産卵抑制作用、殺幼虫作用などを発揮し、その被害防止と密度抑制に効果的です。
- イネドロオイムシに長い残効性：イネドロオイムシが発生するほぼ全期間にわたって防除効果を発揮し、他剤抵抗性のイネドロオイムシにも有効です。
- ツマグロヨコバイ（萎縮病、黄萎病）にすぐれた効果：本田初期のツマグロヨコバイに高い効果を発揮することによりウイルスなどの媒介活動を阻止し、萎縮病や黄萎病の発病を食い止めます。
- 用法は簡単で省力的：移植前の育苗箱へ均一に施用するだけですから、本田での散布にくらべ、省力的です。
- 使用薬量が少なく経済的：本田散布にくらべ、少ない薬量で長期間にわたり高い防除効果を発揮するので経済的な防除ができます。

(育苗箱床土混和剤として)

- 本田初期害虫を省力防除：播種前に床土に混和するだけで初期害虫の防除ができます。播

(2022年12月14日現在の内容) 住友化学の農業支援サイト: i 農力 <https://www.i-nouryoku.com/>

種1 ヶ月前から当日まで、いつ混和してもよいので労働力の分散ができ、また肥料などとの同時混和もできるので大量の育苗箱に薬剤施用する場合などに好適です。